

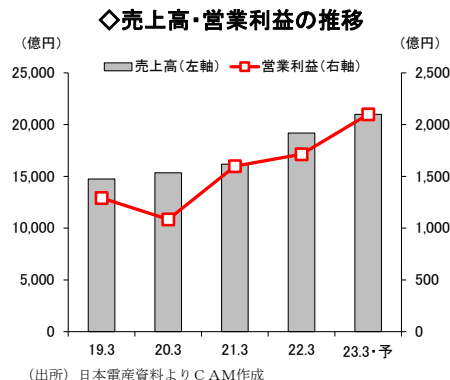
企業ニュース 日本電産

(東証プライム : 6594) <https://www.nidec.com/jp/>

作成者: 村上大志

創業者で代表取締役会長の永守氏がCEOに復帰

1973年設立。精密小型モータにおける数々の技術革新、海外代理店の拡張、積極的なM&Aなどで事業を拡大。EV（電気自動車）用トラクションモータ「E-Axle（イーアクスル）」に注力しており、同モータを供給する部品メーカーとしては世界トップクラスの実績を誇る。会社推定では、同モータの外製メーカーによる中国市場（2021年）でのシェアは27%とトップ。2022年4月より創業者で代表取締役会長の永守氏がCEO（最高経営責任者）に復帰。同氏による経営指導体制の下、経営執行のスピードアップが期待される。中期戦略目標「Vision 2025」では、26.3期の売上高4兆円（自律成長3兆円、新規M&A1兆円）、営業利益4,500億円以上を目標に掲げる。



トラクションモータの黒字化を前倒しで達成する見通し

22.3期の連結業績は売上高が1兆9,182億円、前期比19%増、営業利益が1,715億円、同7%増。売上高、営業利益ともに過去最高を更新。会社計画に対しては、売上高は超過達成となったが、営業利益は未達だった。製品グループ別では、家電・商業・産業用と機器装置が堅調に推移し業績をけん引。一方で、半導体不足に加え、東南アジアや中国におけるロックダウンの影響で精密小型モータが低調、車載はトラクションモータの研究開発費が増加し減益となった。

23.3期の会社計画は売上高が2兆1,000億円、前期比9%増、営業利益が2,100億円、同22%増。為替前提は1米ドル=110円、1ユーロ=125円。車載では、トラクションモータの受注は旺盛な状況が続いており、生産体制の増強で早ければ今年中に累計生産台数100万台を突破する予定。また、性能向上と原価低減を実現した第2世代のトラクションモータを今下期から投入することで、目標だった24.3期の黒字化を半年程度前倒しで達成する見通しを示している。市況高騰やウクライナ危機、中国のロックダウンなど不安定な事業環境が続くが、CEOに復帰した永守氏の環境変化に対応したスピード経営により、利益率の改善などが期待される。

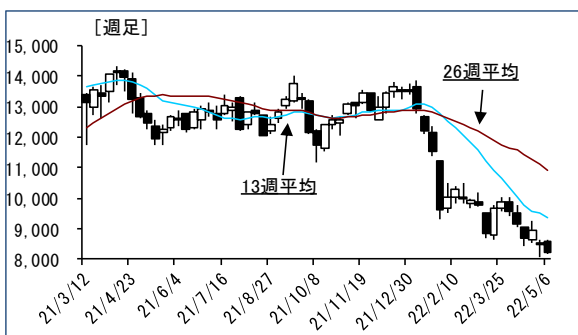
[株価動向・投資判断]

車載の黒字化を前倒しで達成する見通しを発表した点はポジティブ。工作機械事業に本格的に参入する予定で、業績の拡大が期待できよう。

<6594 日電産 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	1,618,064 (5)	159,970 (47)	152,937 (45)	121,945 (109)	208.2	60.00
22.3	1,918,174 (19)	171,487 (7)	171,145 (12)	136,870 (12)	234.3	65.00
23.3 予	2,100,000 (9)	210,000 (22)	206,000 (20)	165,000 (21)	284.4	70.00



株価 (2022/5/6)	8,227 円
年初来高値 (高値日)	13,840 円 (22/1/4)
同 安値 (安値日)	8,093 円 (22/4/27)
予想 P E R (23.3 予)	28.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,228.9 円
P B R	3.69 倍
予想配当利回り	0.85 %
(1株当たり配当金 70.00円)	
R O E (22.3)	11.5 %
発行済み株式数	59,628 万株